

厚生科学研究費補助金  
エイズ対策研究事業

“性感染症としての HIV 感染” 予防のための市民啓発を、  
各種情報メディアを通して具体的に実施実行する研究計画

平成 12 年度 総括研究報告書

主任研究者 熊本 悦明

平成 13 (2001) 年 3 月

## 目 次

I. 総括研究報告	
“性感染症としての HIV 感染” 予防のための市民啓発を、各種情報メディア を通して具体的に実施実行する研究計画 .....	7
熊本悦明	
(資料) 1. 性感染症についてのアンケート及びその集計結果 .....	14
2. コンドームについてのアンケート結果 .....	19
3. ホームページ (URL:http://www.jfshm.org/) 内容紹介 .....	25
4. “性感染症流行の現状” 紹介啓発用若者向け小冊子「若い人たちの “性の健康”を守るために” .....	31
5. 公開セミナー「これからの性の健康を促進するために」関連資料 .....	58
II. 公開講座「性感染症／エイズ流行の現状をどう考えるか」記録集 .....	63
(情報メディア関係者啓発のための公開講座記録：2000年11月24日，学士会館)	
III. 研究成果の刊行に関する一覧表 .....	113
IV. 研究成果の刊行物・別刷	
1. 日本性感染症流行の現状（附性感染症の歴史） .....	119
2. 女性優位の STD 時代：STD の最近の動向 .....	139
V. エイズ対策研究推進事業	
研究成果等普及啓発事業（大阪、東京の STD/HIV 市民公開講座結果報告） .....	149

# I . 総括研究報告

厚生科学研究費補助金（エイズ対策研究事業）  
総括研究報告書

“性感染症としての HIV 感染” 予防のための市民啓発を、  
各種情報メディアを通して具体的に実施実行する研究計画

主任研究者 熊本 悦明 （財）性の健康医学財団会頭

**研究要旨**

わが国において、従来の性感染症が、クラミジアを始めとして大流行し、今や性生活を持つ生殖年齢層にとって、性生活上の生活環境汚染的広がりを持っている。その性感染症の広がる一般市民の生活の場に“性感染症としての HIV 感染”が次第に浸透し始めつつある。

ことに、ごく近隣の中国でのエイズ/HIV 感染の大流行の波が、急激に押し寄せてくる可能性が強く危惧されている。

そのような状況にもかかわらず、わが国の一般市民はもちろんのこと、医学界・厚生行政分野の人々にも、あまり危機感が感じられない。それは薬害エイズ・アレルギーによる負の反応と言わざるを得ず、その点の改善が急務とあってよい。

そこで、その点を強く憂慮するという立場から、我々研究班は、最も市民へのアプローチが近く、かつ速い情報メディアを中心に、各種の手段を通して性感染症/HIV 感染流行の実態を正しく、かつ比較的詳しく情報として流し、啓発活動をもとに HIV 感染流行予防へ、その役割を果たすよう研究を進めている。

現在のところ、研究・啓発活動を通して得た結論は、あまりにも各分野での性感染症/HIV 感染に関する知識不足、甘い認識度に驚かされると共に、性感染症への不潔な感染症、自業自得的疾患などという強い偏見、さらには“性”全体に対する保守的な考え方が、根強い社会全体に広がっていることを改めて感じている。

今後の研究啓発調査活動を通して性感染症のみでなく、“性”に対する正しい理解を高めると共に、正しい性感染症予防のためのコンドーム使用啓発活動を行い、その具体的な啓発活動の効果を検討していきたい。

その研究の中で、より有効な啓発は如何にあるべきかを少しでも明らかに出来ることを目的としている。

分担研究者：

島崎 継雄（日本性科学情報センター 所長）

行天 良雄（NHK OB、（国際医療福祉大学教授）評論家）

小谷 直道（読売新聞大阪本社 取締役 編集局長）  
大熊由紀子（朝日新聞社 論説委員）  
南谷 幹夫（東京都立駒込病院 東京都非常勤医員）  
川名 尚（帝京大学医学部産婦人科 教授）  
木原 正博（京都大学大学院医学研究科 教授）

## A. 研究目的

HIV/エイズが性感染症として大きく感染の輪を広げつつあるにもかかわらず、わが国では薬害エイズ問題との関係から、HIV/エイズは特殊な人々の感染症という認識が強く、一般市民はもちろんのこと、医学・保健関係者さえ性感染症としての HIV/エイズに対する関心が極めて薄い。

しかも、その HIV/エイズは従来の性感染症に感染していると 3 倍も 4 倍もかかり易いことを考えれば、従来の各種性感染症の現在の大流行に危機感を持つべきなのに、その事実さえ多くの人が問題意識を持っていない。

このような状況の中で、アジアで増大しつつある HIV/エイズ流行の波が、わが国にも襲いかかってくる可能性が強く危惧されるところである。

このような社会的な HIV/STD への無関心さを改善していくことが、HIV 流行予防のための鍵的な問題点であり、いかにその危機意識を高めるかが HIV/STD の社会病的性格を考えると、今や HIV/STD 研究の最大の課題となっていると考えている。

そこで、問題情報を市民へ流すことの最前線にいる情報メディアなどの協力を得て、そのような安易な社会意識を変えていくべき方を検討していくことを検討しつつ、その啓蒙効果の分析研究を実施し、一日でも早く現在の市民の HIV/STD への危機感のなさの改善と予防行動の啓発を行うことを本研究班の研究目的とし

ている。

## B. 研究方法

### 1) 各種啓発方法の検討

①HIV と STD との関連性と、②.HIV と STD の現在の流行度（ことに大流行している STD）の 2 点について、具体的な情報を正確に市民はもちろんのこと、それを啓発すべき立場の医学・保健関係者へ、どのように提供し、その反応効果を検討する。

一般市民はもちろんのこと、今年度の啓発活動により医学・保健関係者の認識不足、それによる危機感の低さは驚くほどであることを知り得た。そこで啓発活動をどの方法で、どの程度の範囲に広げていくことが、より市民の意識改善に効果的か、分析検討を行う。

具体的には各地の医師会・各県の保健行政担当者講習会、中学・高校の養護教員講習会、さらに、中学・高校生徒への性教育講演、また情報メディア関係者や一般市民への公開セミナーなどを各地で頻回に行いつつ、参加者の HIV/STD への認識の程度及び危機意識の調査を行いつつある。

その際、我々の作製している HIV/STD 疫学調査の比較的詳しいデータ提供をしているブックレットや若者のためにこの感染症の問題点を詳しく解説したパンフレット等を配布し、その中にアンケートを入れ、認識調査を広範に行い、問題点を分析している。

### 2) 情報メディアが HIV/STD 流行の現実を

どの程度どのように具体的かつ正確に、保健行政担当者、学校性教育担当者、さらに一般市民に情報提供しているかの調査分析：

- ① 先ず、市民啓発担当の保健行政機関の広報や具体的な啓発活動の内容を調査し、どの程度 HIV/STD 問題の正確な啓発を、また予防としてのコンドーム・キャンペーンを行っているかの検討をする。この点に関する保健行政の意識の低さがあまりにもひどいことを、我々の講演シリーズで如実に体験し、驚いており、その危機感のなさを明らかにしていきたい。そして、それへの情報提供をどのように行うべきか、その効果も含めて具体的に分析する。
- ② 同時に一般情報メディア（新聞・雑誌・週刊誌、またテレビなど）から HIV/STD 問題の情報が、どのような意識パターンで、どの程度正確に流されているか、また、その情報提供の頻度がどの程度のものであるかの情報社会学的調査分析を行う。また、その情報の啓発効果の検討も行う。ことに性感染症の最大の問題である予防意識、具体的なコンドーム使用啓発効果がどの程度市民に定着しているかが、また今後の啓発活動により実際に意識改善、実施のコンドーム使用率の向上につながるかについて、継続的に検討していく。

#### （倫理面への配慮）

これらの調査は個人的問題につながらないため倫理面での問題はない。しかし、HIV/エイズを性感染症とすることに対する被害エイズ関係者からの強い反抗があることは事実である。しかし、その不幸なエピソードやエイズ

患者への人権問題は、それなりの対応が強く求められることはいうまでもないが、むしろ今後そのような性感染症として HIV 感染の広がりを抑え込むことこそが、わが国の市民全体の性健康を守る唯一の問題点であり、世界的に性感染症としての HIV 予防キャンペーン、ひいてはコンドーム使用啓発活動において、問題解決のないことを強調しておくことが求められているといえよう。

現在の国民のエイズに対する認識が人権問題があまりに表面に出過ぎて、最大の問題点である性感染症/HIV 感染予防のためのコンドーム・キャンペーンへの心理的抵抗があまりにも強いことを、いかになくしていくか、研究者・保健行政担当者の課題であると考ええる。

#### C. 研究結果

- 1) 本年度のこの研究班の初年度であり、具体的な立上げ、態勢作りに力点をおいたため、現時点では研究のための問題点の解析とそのアプローチの方法の検討を、具体的に十分行い得ておらず、研究が次年度に充実し得る段階に漸く来たと考えている。
- 2) HIV/STD の流行の厳しい現実を、医師・保健担当者、また情報メディア関係者、さらに一般市民が殆ど認識しておらず、そのため HIV は怖いといいながらも具体的な身近な問題という意識がなく、危機感が極めて低い。この人々の無関心の事実があまりにも深刻であるということを今年度の啓蒙活動（講演シリーズ、各種公開セミナー、テレビ・ラジオでの放送、新聞・雑誌・週刊誌の情報掲載など）を通じて痛感させられているところである。ことに保健行政関係者の認識不足と問題意識のなさを見ると、いかに正確な詳しい情報が、研究者グループから一般社会はもち

ろんのこと、それら医療保健関係領域に提供されていなかったかを如実に理解できる。その裏にはやはり“性”問題を取り上げることに對する心理的抵抗が、わが国の文化的背景にかなり強固にあるわけで、それをいかに打破し、HIV/性感染症の予防としての性知識の普及、コンドーム問題を堂々と論じうる雰囲気創生の創生が強く求められている。そして、その背景作りを行いつつ HIV/性感染症の大流行への危機感の向上を図ることの必要性が、我々の本年度の啓蒙活動と調査で明らかになって来ている。例えば、医学や看護の学生ですら、殆ど教育の場での情報提供がなく、そんな大変な問題ならもう少し詳しい情報を得たいという希望を述べる反応を示している。

3) ことにコンドーム使用啓蒙に関しては、現在でも避妊のための使用という意識が先行し過ぎているため、HIV/性感染症予防のためにいかに正しく使用するかという知識が一般市民、ことに若年者の啓蒙教育が、(これだけHIV/STD問題を専門家の間で注目され、論ぜられているにも拘らず)あまりにも不十分、かつ不徹底であることが、我々の調査でも明らかになって来ている。この問題と関係して学校における性教育の具体的な方法、内容についてもより詳細に調査分析し、その改善のための方策の検討が必須と感じている。

4) その一般市民、ことに若者への情報提供の手段としては、情報提供のブックレットやパンフレット、ホームページなどで具体的な方法を用いて、その反応を検討している。通常、若者は詳しい内容のものには近づかないといわれているが、我々のパンフレット、ホームページは、他の施設から出ているパンフ

レットやホームページとは異なり、比較的詳しく、わかるように HIV/性感染症の問題点を解説したものであるが、これが想像以上によく受け入れられていることが分かった。それは、ホームページへのアプローチもこの半年の間で6万件近くに達していることや、我々のパンフレットへの要求が少なくないことから明らかである。簡単なものは表面的過ぎて“アーそうか”で終わってしまっている訳で、関心のある人々への真の情報提供にはなっていないことが分かる。

5) 次に、現実に市中に流されている HIV/性感染症に関する情報の“質”と“量”はどのようなものであり、その啓蒙効果がどのようなかという点が大きな問題点となってくる。その点の我々研究班での調査研究は、今年度がスタートの遅い初年度であることから、準備の時間の関係上で、漸く研究協力者の石川弘義教授(成城大学社会心理学)の協力の下、研究調査の方法の検討と具体的な実施方針が決められたところであり、次年度研究の中心的課題として計画している。そしてさらに前述の積極的な啓蒙活動の硬化の分析検討も同時に並行して行い、HIV/性感染症への問題意識と危機感の創生をいかにすべきか、さらに今の問題の背景にある“性”をあげつらうことに対する社会的反発に對し、どのようなアプローチが最も効果的な啓蒙対応なのかの分析検討をこの班の重要な研究テーマとして進めていきたい。

## D. 考察

### 1) 達成度

- ① 本年度は情報メディアを中心とした分野の人々に情報提供を行うべく、情報提供手段として、公開セミナー開催

や、HIV/性感染症の詳しい疫学調査データや啓蒙用の分かり易いパンフレットなどの資料送付で啓発活動を行いつつ、その反応と啓発効果を検討してきた。ただ初年度はその具体的な詳細な調査に入る前の情報活動の展開とそれへの反応パターンの検討に止まり、その効果の具体的な調査を詳細に行う方法論の検討を行う段階に止まっており、この分野での達成度は十分とはいえないと考えている。

- ② ただ、今年度の各種開発活動の結果としてまとめられることは、一般市民のみでなく、この問題の啓蒙のリーダーシップをとるべき保健行政関係者はもとより、医師のレベルでさえも、HIV/STD への認識の不十分さと危機認識の甘さが目立っている。それがいかにも深刻である。このような状況では情報メディア関係者、さらには一般市民が無関心でいるのもやむをえないのではないかと痛感している。HIV/STD の基礎的・臨床的研究も必須であるが、同時にそれ以上に、この疾患群の問題性を市民個々人の予防対策への認識向上を図ることこそが、公衆衛生学上の鍵的問題点であることを強く考えさせられている。
- ③ そのような経過の中で、研究方法の2) ②に述べた分析調査研究は、漸く態勢が研究協力者の石川弘義（成城大）を中心に方針がまとまりつつあり、次年度にまとめの報告に加えることが可能となった。また同時に、その研究過程の中で決められる我々の啓発活動の効果反応評価法に基づき、研究

方法2) ①で述べた各種啓蒙活動評価成績の検討も行う予定である。この段階の達成度は、時間的關係から初年度の研究班業績であるとはいえ、かなり不十分であるといわざるを得ない。

- ④ コンドーム使用啓発活動と調査：  
具体的には財団のホームページ（URL:<http://www.jfshm.org/>）及びオカモトゴムとの共同キャンペーンにより、啓蒙とコンドーム使用に関する意識調査を行っている。どのような啓発がより有効かの検討は、十分に分析し得ていないが、一般的に避妊中心のコンドーム使用状況が調査で明らかになっている。今後はより広い対象での調査を行う予定である。今やいかに HIV/性感染予防のためのコンドーム使用方法を正しく若者中心に啓発定着させ、実行させるかの検討が必須であるが、この面での成果の評価は具体的にかなり難しく、道半ばというところと感じているし、他の研究グループとの連携も必須と考える。
- ⑤ このようなわが研究班の成果は、いまだ必ずしも十分でないと考えてはいるが、このように HIV/性感染症を的確に性の問題と位置付け、堂々と正確かつ詳細な資料を用い、いわゆる“Data Based Education”を具体的に、しかも活発に外に向かって行っている研究班や専門家グループ、財団などは他に類を見ない。わが国が他のアジアの国々のようにエイズ大国に進むや否やは、HIV/性感染症に対する甘い危機意識と予防行為の不徹底さという現在の危機的状況をいかに

早急に改善するかにかかっているわけで、我々研究班は、その推進役的役割は行っていると考えている。そして我々は、単に啓蒙活動を行うのみでなく、その啓蒙活動を具体的にどのような方法の実際の啓蒙効果はどのようなものであるかを検討しつつ啓蒙活動を行うことが、単に情報提供に努める以上に重要であるという立場で研究を進めている。現在のわが国の状況からいって極めて有意義な研究活動と思いつつ、研究調査を進めている。

## 2) 今後の展望

2001年度に入り、2000年度の啓蒙研究調査成績を踏まえ、HIV/性感染症の一般市民への情報提供を、より具体的に、情報メディアを通じて行うことが、より有効、効果的であるかが、徐々にではあるが、明らかになると考えている。

このような研究調査が、前述したように医学・保健関係者も含め、情報メディアなどの一般市民への HIV/STD 問題の情報提供の方法論の確立に向かって研究を進めていくことの成果と意義は大きいと信じている。

## E. 結論

今までの HIV/性感染症の基礎的・臨床的研究は、かなり成果をあげているにも拘らず、それがあまりにも一般市民に知らされ問題点を認識されていない。

HIV/性感染症の最大の医学的・保健学的問題は、感染してからの問題より、いかに感染させないかという、その予防にあるということを考えれば、今やその社会教育啓蒙の方法を、

我々のような具体的なデータを持つ者が、“Data Based Education” または “Evident Based Medicine” という立場に立って、最良の啓蒙方法を検討しつつ、啓蒙活動を実際に行うべき時が来ている。

そのような立場から今年度は積極的に啓蒙調査研究を行い、HIV/STD 問題の医学・保健関係者を含めて情報メディア関係者や一般市民の認識の低さを知り得た。一方、現在流されている情報メディアの実態調査分析と、その有効性の分析については、本年度の初年度という条件下で十分な調査分析を発表するまでに至らなかったが、次年度にその内容を報告する予定である。

いずれにせよ今まで我々のような HIV/STD の研究グループが社会への情報提供のために積極的に市民に向かって手を伸ばすことにあまり意義を認められていなかった。このことが、現在のような STD 大流行をもたらし、その波に HIV 感染が広がる可能性の高い状況が生じさせてきたものと考えている。情報活動は情報関係者に任せておけばいいのではなく、正確なデータを持っている研究者が積極的に切迫感を持って情報を提供していくことをしなければ、情報メディアもあまり切迫感を感じず敏感に反応して動くことも少なく、またそれから流される情報にも迫力がないことを我々の研究調査成績で痛感している。今後、いかにその情報提供をより効果的に行うかの調査研究を行う我々の研究班の意義を強く感じている。

## F. 健康危険情報

なし。

## G. 研究発表

### 1. 論文発表

- (1) 熊本悦明：女性優位の STD 時代：STD の最近の動向。臨床婦人科産科 55：10-18, 2001.
- (2) 熊本悦明：日本性感染症流行の現状（附性感染症の歴史）. 性感染症／HIV 感染—その現状と検査・診断と治療（熊本，松田，川名編，メデカルビュー社）：18-36, 2001.

○ 配布パンフレット

- (1) 性の健康医学財団（熊本編）：パンフレット（24 page）：身近に広がる性感染症／エイズ—若い人達の“性の健康”を守るために（厚生省エイズ対策課、結核感染症課 監修）

2. 学会発表

- (1) 熊本悦明：ランチョンセミナー「女性性器クラミジア感染症の大流行をめぐって」. 第 52 回日本産婦人科学総会（徳島），2000 年 4 月 2 日
- (2) 熊本悦明：“Epidemiological Aspects of STD/HIV in Japan”，アジア・オセアニア Andrology 学会（千葉），2000 年 5 月 26 日.
- (3) 熊本悦明：ランチョンセミナー「本邦における細菌性 STD の流行」, 日本泌尿器科学会総会（札幌），2000 年 6 月 5 日.
- (4) 熊本悦明：「若者における STD 流行の現状」, 日本思春期学会（東京），2000 年 8 月 12 日.
- (5) 熊本悦明：教育講演「Qus Vadis 21 世紀の日本性感染症学会の進む道を考える」, 日本性感染症学会（名古屋），2000 年 12 月 3 日

3. 公開講座・セミナー

- (1) 厚生科学研究公開講座「性感染症／エイズ流行の現状をどう考えるか」, 2000 年 11 月 24 日（東京・学士会館）
- (2) 厚生科学研究公開セミナー「これからの性の健康を促進するために」, 2001 年 2 月 23 日（東京・主婦会館プラザエフ）

4. 成果発表会

- (1) STD/HIV 市民公開講座「若者と性の健康」, 2001 年 3 月 24 日（大阪市）
- (2) STD/HIV 市民公開講座「若者と性の健康」, 2001 年 3 月 26 日（東京・私学会館）

H. 知的財産権の出願・登録状況

- |           |    |
|-----------|----|
| 1. 特許取得   | なし |
| 2. 実用新案登録 | なし |
| 3. その他    | なし |

### <性感染症についてのアンケート>

性の健康医学財団では、性感染症が最近いろいろ問題を起こしておりますので、このようなパンフレットを作りました。そこで、皆様が性感染症についてどの程度知っておられたか、また性感染症についてのご意見を伺いたく、アンケート調査を行っております。これからの啓発活動に大変参考になりますので、是非ご記入いただきたく、ご協力の程お願い申し上げます。

<ご年令>	<性別> 男                  女	ご職業
<結婚>	している                  していない	

<1> 性感染症について、詳しく知る機会がありましたか。

- a. 新聞で                  b. 雑誌で                  c. 本で                  d. テレビで  
e. インターネットで      f. 友人から                  g. 学校で                  h. 医師から  
i. 殆ど知らない

<2> 知っていた性感染症の名前に○をつけてください。

- a. 梅毒                  b. 淋菌感染症                  c. クラミジア感染症  
d. 性器ヘルペス                  e. 尖形コンジローム

<3> 性感染症について、次のことをご存知でしたか。知っていたことには○をつけてください。

- a. 今流行している性感染症は、症状が殆ど出ないものが多い。  
b. エイズも性感染症である。  
c. 上記の<2>に書いたような性感染症にかかっていると、エイズに3倍も4倍もかかり易い。  
d. 子宮頸癌も、性感染症であるヒト乳頭腫ウイルス感染と極めて深い関係がある。  
e. クラミジア感染症が大流行している。  
f. クラミジア感染症になると不妊症や流産・早産になりやすい。

<4> 性感染症予防のため、コンドームを使っておられますか。

- a. 決まったパートナーの時は、      いつも                  時々                  使っていない  
b. 不特定のパートナーの時は、      いつも                  時々                  使っていない

<5> ご意見があれば、是非お書きいただければ幸いです。

ご協力ありがとうございました。  
厚生科学研究：STD/HIVの情報分析研究班（班長 熊本 悦明）

# 性感染症についてのアンケート調査 (2000年度)

<39才以下:199例>

## ①STDについての知識を得る所は？

本、雑誌	45.2%	学校	18.7%
医師	10.8%	新聞	10.3%
テレビ	8.1%	インターネット	3.2%
友人	1.7%		

## ②性感染症予防のため、コンドームを使っている？

○決まったパートナーの時は			
いつも使用	45.7%	時々使用	31.7%
		使っていない	22.6%
○不特定のパートナーの時は			
いつも使用	77.0%	時々使用	14.8%
		使っていない	8.2%

＜性感染症についてのアンケート集計＞

年齢	～24歳	25～29歳	30～34歳	35～39歳	40歳以上	NA	合計
全体	23	67	50	59	218	12	429
男	3	8	19	24	83	0	137
女	20	59	31	35	134	9	288
NA	0	0	0	0	1	3	4

○年齢

結婚	している	していない	NA	合計
全体	296	124	9	429
男	118	18	1	137
女	175	106	7	288
NA	3	0	1	4

○既婚・未婚

○職業

職業	人
医師	30
看護婦・看護	18
助産婦	11
薬剤師	2
保健婦(保健所職員)	12
その他医療職	1
会社員	76
学生	4
教員	12
研究員	1
公務員	23
自営・自由業	3
マスコミ	2
養護教諭	15
福祉職	2
団体・大学職	4
主婦	3
無職	6
無回答	204
計	429

医療関係者 74  
その他の職業 151

<1>性感染症について、詳しく知る機会がありましたか？(複数回答)

媒体	a. 新聞	b. 雑誌	c. 本	d. テレビ	e. インターネット	f. 友人	g. 学校	h. 医師	i. 殆ど知らない	その他	合計	NA
39歳以下	全体	42 10.3%	79 19.4%	105 25.8%	33 8.1%	13 3.2%	7 1.7%	44 10.8%	1 0.2%	7 1.7%	407 100.0%	8
	男	11 12.8%	14 16.3%	19 22.1%	9 10.5%	6 7.0%	1 1.2%	16 18.6%	1 1.2%	3 3.5%	86 100.0%	6
	女	31 9.7%	65 20.2%	86 26.8%	24 7.5%	7 2.2%	6 1.9%	70 21.8%	28 8.7%	0 0.0%	4 1.2%	321 100.0%
40歳以上	全体	75 16.6%	87 19.2%	129 28.5%	45 10.0%	13 2.9%	2 0.4%	33 11.9%	5 1.1%	9 2.0%	452 100.0%	15
	男	31 18.8%	39 23.6%	43 26.1%	16 9.7%	8 4.8%	1 0.6%	7 4.2%	19 11.5%	1 0.6%	165 100.0%	2
	女	44 15.4%	48 16.8%	86 30.1%	29 10.1%	5 1.7%	1 0.3%	26 9.1%	35 12.2%	3 1.0%	9 3.1%	286 100.0%

<2>知っていた性感染症の名前に○をつけてください(複数回答)

	a. 梅毒	b. 淋菌感染症	c. クラミジア感染症	d. 性器ヘルペス	e. 尖形コンジロー	合計	NA
39歳以下	全体	197 99.0%	196 98.5%	198 99.5%	191 96.0%	180 90.5%	962
	男	53 98.1%	52 96.3%	53 98.1%	51 94.4%	44 81.5%	253
	女	144 99.3%	144 99.3%	145 100.0%	140 96.6%	136 93.8%	709
40歳以上	全体	215 98.6%	213 97.7%	210 96.3%	196 89.9%	175 80.3%	1,009
	男	83 100.0%	82 98.8%	79 95.2%	73 88.0%	63 75.9%	380
	女	131 97.8%	131 97.8%	131 97.8%	123 91.8%	112 83.6%	628

<3>性感染症について、次のことをご存知でしたか。知っていることには○をつけてください(複数回答)

	a. 今流行している性感染症は、症状が殆ど出ないものが多い。	b. エイズも性感染症である。	c. >上記<2に書いたような性感染症にかかっている、エイズに3倍も4倍もかかり易い。	d. 子宮頸癌も、性感染するヒト乳頭腫ウイルス感染と極めて深い関係がある。	e. クラミジア感染症が大流行している。	f. クラミア感染症になると不妊症や流・早産になりやすい。	合計	NA
全体	160 80.4%	191 96.0%	119 59.8%	111 55.8%	173 86.9%	180 90.5%	934	2
39歳以下								
男	39 72.2%	49 90.7%	24 44.4%	24 44.4%	46 85.2%	44 81.5%	226	2
女	121 83.4%	142 97.9%	95 65.5%	87 60.0%	127 87.6%	136 93.8%	708	0
全体	161 73.9%	203 93.1%	131 60.1%	113 51.8%	182 83.5%	192 88.1%	982	7
40歳以上								
男	58 69.9%	76 91.6%	51 61.4%	48 57.8%	69 83.1%	74 89.2%	376	2
女	103 76.9%	127 94.8%	80 59.7%	65 48.5%	113 84.3%	118 88.1%	606	4

<4> 性感染症予防のため、コンドームを使っておりますか？

			いつも	時々	使って いない	計	その他	NA	合計
a. 決まったパートナーの時は、	39歳以下	全体	75 45.7%	52 31.7%	37 22.6%	164 100.0%	1	34	199
		男	21 43.8%	11 22.9%	16 33.3%	48 100.0%	0	6	54
		女	54 46.6%	41 35.3%	21 18.1%	116 100.0%	1	28	145
	40歳以上	全体	34 25.0%	33 24.3%	69 50.7%	136 100.0%	0	81	217
		男	9 15.3%	15 25.4%	35 59.3%	59 100.0%	0	24	83
		女	25 32.9%	18 23.7%	33 43.4%	76 100.0%	0	57	133
b. 不特定のパートナーの時は、	39歳以下	全体	47 77.0%	9 14.8%	5 8.2%	61 100.0%	12	126	199
		男	23 71.9%	7 21.9%	2 6.3%	32 100.0%	2	20	54
		女	24 82.8%	2 6.9%	3 10.3%	29 100.0%	10	106	145
	40歳以上	全体	17 70.8%	7 29.2%	0 0.0%	24 100.0%	0	178	202
		男	11 61.1%	7 38.9%	0 0.0%	18 100.0%	0	61	79
		女	6 100.0%	0 0.0%	0 0.0%	6 100.0%	0	116	122

# コンドーム・キャンペーン時のアンケート調査 (2000年12月：265例)

	① コンドーム使用頻度	
	男(57例)	女(205例)
常に	61.4%	62.5%
時々	21.1%	30.8%
不使用	17.5%	6.7%

  

	② エイズ・クラミジア感染症などに対して	
	男	女
恐い	93%	92.8%
自分に関係なく		
何とも思わない	5.3%	3.0%
エイズは恐いが		
他のSTDは気にしない	1.8%	2.4%

③ 避妊のための対策	男	女
コンドーム	80.7%	90.9%
ピル or 避妊薬	/	2.4%
体外射精	17.5%	13.5%

#### ④ コンドーム使う時

##### 購入場所

コンビニ or スーパー	57.9%	43.7%
ドラッグストア	33.3%	39.4%
薬局	10.5%	10.6%
自販機	0%	2.4%

##### 誰が買うか

本人	82.5%	17.3%
相手	5.3%	49.5%
二人で	10.5%	26.0%

LOVE TO LIVEキャンペーン (2000年12月開催・(オカモト株)アンケート調査結果

○年齢分布

年齢	19歳以下	20～24歳	25～29歳	30歳以上	無回答
全体 (N=265)	40	147	56	17	5
男性 (N=57)	8	30	13	5	1
女性 (N=208)	32	117	43	12	4

○職業

職業	高校生	大学生	大学院生	専門学校生	会社員	公務員	フリーター	無回答
全体 (N=265)	12	52	1	24	93	11	59	13
男性 (N=57)	3	14	1	6	18	1	9	5
女性 (N=208)	9	38	0	18	75	10	50	8

Q1. SEXをする時、コンドームを使いますか？

コンドームを使う	①はい		②いいえ		③つけたり、つけなかったり	
	人	(%)	人	(%)	人	(%)
全体 (N=265)	165	62.3	24	9.1	76	28.7
男性 (N=57)	35	61.4	10	17.5	12	21.1
女性 (N=208)	130	62.5	14	6.7	64	30.8

Q2. Q1で②、③と回答した理由？

理由	①めんどくさい		②気持ちよくない		③相手が嫌がる		④買えない		⑤ダメ		⑥他の避妊方法		⑦その他/無回答	
	人	(%)	人	(%)	人	(%)	人	(%)	人	(%)	人	(%)	人	(%)
全体 (N=100)	38	38.0	20	20.0	23	23.0	4	4.0	1	1.0	4	4.0	17	17.0
男性 (N=22)	8	36.4	7	31.8	1	4.5	1	4.5	1	4.5	2	9.1	2	9.1
女性 (N=78)	30	38.5	13	16.7	22	28.2	3	3.8	0	0.0	2	2.6	15	19.2

Q3. エイズ、クラミジアなどの性感染症について

どう思う	①怖い		②何とも思わない		③自分には関係がない		④エイズは怖い、他の性感染症は気に		⑤その他/無回答	
	人	(%)	人	(%)	人	(%)	人	(%)	人	(%)
全体 (N=265)	246	92.8	5	1.9	4	1.5	6	2.3	4	1.5
男性 (N=57)	53	93.0	0	0.0	3	5.3	1	1.8	0	0.0
女性 (N=208)	193	92.8	5	2.4	1	0.5	5	2.4	4	1.9

Q4. 避妊について

どう考える	①きちんとした方がよい		②最悪の場合は、望せはいい		③あまり考えたくない		④その他/無回答	
	人	(%)	人	(%)	人	(%)	人	(%)
全体 (N=265)	241	90.9	3	1.1	16	6.0	5	1.9
男性 (N=57)	51	89.5	1	1.8	5	8.8	0	0.0
女性 (N=208)	190	91.3	2	1.0	11	5.3	5	2.4

Q5. 避妊のために、どのようなことをしているか？

避妊法	①コンドーム		②ピル		③避妊薬		④体外射精		⑤その他/無回答	
	人	(%)	人	(%)	人	(%)	人	(%)	人	(%)
全体 (N=265)	235	88.7	4	1.5	1	0.4	38	14.3	16	6.0
男性 (N=57)	46	80.7	0	0.0	0	0.0	10	17.5	4	7.0
女性 (N=208)	189	90.9	4	1.9	1	0.5	28	13.5	12	5.8

Q6. コンドームの購入場所は

購入場所	①コンビニ		②ドラッグストア		③スーパー		④薬局		⑤自販機		⑥通販		⑦その他/無回答	
	人	(%)	人	(%)	人	(%)	人	(%)	人	(%)	人	(%)	人	(%)
全体 (N=265)	118	44.5	101	38.1	6	2.3	28	10.6	5	1.9	3	1.1	29	10.9
男性 (N=57)	32	56.1	19	33.3	1	1.8	6	10.5	0	0.0	0	0.0	4	7.0
女性 (N=208)	86	41.3	82	39.4	5	2.4	22	10.6	5	2.4	3	1.4	25	12.0

Q7. 使うコンドームは決まっているか？

	①決まっている		②決まっていない		無回答	
	人	(%)	人	(%)	人	(%)
全体 (N=265)	9	3.4	238	89.8	18	6.8
男性 (N=57)	4	7.0	51	89.5	2	3.5
女性 (N=208)	5	2.4	187	89.9	16	7.7

Q8. コンドームを買う時のポイントは？

	①価格		②機能		③パッケージ・デザイン		④メーカー		⑤ブランド		⑥その他/無回答	
	人	(%)	人	(%)	人	(%)	人	(%)	人	(%)	人	(%)
全体 (N=265)	111	41.9	70	26.4	33	12.5	13	4.9	9	3.4	57	21.5
男性 (N=57)	31	54.4	13	22.8	5	8.8	3	5.3	1	1.8	8	14.0
女性 (N=208)	80	38.5	57	27.4	28	13.5	10	4.8	8	3.8	49	23.6